

汗のチカラでメイクの崩れを防ぐ 新技術誕生

肌環境に応じ汗を吸収し、毛穴補正力がアップするベースメイク技術を開発

ポーラ・オルビスグループの研究・開発・生産を担うポーラ化成工業株式会社(本社:神奈川県横浜市、社長:片桐崇行)は、メイクの崩れを防ぐ新たな技術を開発しました。これまでの概念とは異なり、汗の量などの肌環境や肌質に応じてメイクしたての仕上がりを維持する化粧もち技術として、今後の製品に活用されます。

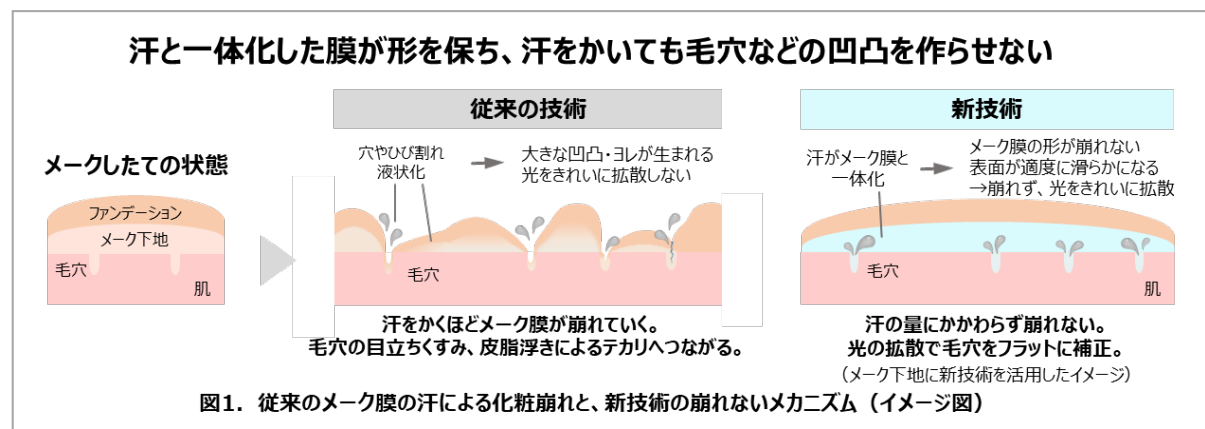
ベースメイクに関する悩みのトップ常連「毛穴の目立ち」の原因とは

季節や年代を問わず「毛穴の目立ち」は常に上位にあがる肌悩みです。毛穴の悩みは、「朝きれいに仕上げたメイクが崩れてしまう」といったベースメイクの崩れとも関連があります。崩れの主な原因は、汗の水分によってメイクの膜が弱くなり、毛穴の部分に落ち込むなどして深いひび割れや穴が生じたり、汗に溶けて液状になったメイク膜が肌の上を流れ、表面に大きく不均一な凹凸(ヨレ)が生まれたりすることです。こうした状態になると、メイク膜は光をきれいに拡散できず、毛穴の影やくすみ、さらには皮脂浮きによるテカリが目立ってしまいます。

新着目: 汗を味方に どうなにも汗をかいても崩れない、しなやかなメイク膜をつくる

従来の化粧もち向上技術は、撥水性を高めることで汗をはじくか、粉体などの成分に汗を吸収させる手法が主流でした。しかし、汗の量は人それぞれであり、また夏場などは汗の多さに対応しきれず、キレイなベースメイクの持続時間は極端に短くなってしまいます。

そこで、メイク膜のしなやかさを保ったまま、膜そのものに汗を吸収一体化させることができれば、ひび割れや流動を防ぎ、きれいな仕上がりが続くのではないかと考えました。さらに汗を取り込むことで膜表面の状態が整い光拡散性が向上する性質を持たせることも目指しました。これにより、時間がたっても毛穴が目立たず、つるんと滑らかで崩れない仕上がりが続きます(図1)。



さまざまな化粧品素材をテストし、膜のベースとなり汗を吸収一体化できる素材(水とのなじみが非常に良く汗を抱え込む性質をもつ)と、汗を取り込むことで膜の光拡散性を高める素材(表面を適度な滑らかさに整える性質をもつ)を見出しました。これらを最適なバランスで組み合わせることで、ひび割れたり流れたりしにくく、しかも光拡散性に優れたベースメイク技術を確立しました。また、このメイク膜は、汗を取り込むほど光を拡散する力が高まることが実験的に確かめられています(補足資料1)。

使用実感: 8割以上が従来技術に比べて化粧持ちが良いと評価

肌に直接触れるメイク下地に本技術を活用し使用試験を行うと、つるんと滑らかで毛穴が気にならない仕上がりが続くことが確認できました。また開発品と従来技術のメイク下地について専門評価者 24 名にアンケート調査を行ったところ、84%の評価者が毛穴や凹凸のない滑らかな肌になっていると判定しました(補足資料2)。

ポーラ化成工業では今後も、お客様のニーズに応える新技術の開発を行っていきます。

【補足資料 1】 汗の量とメイク膜の光拡散力の関係

本技術を用いたメイク品で膜を作り、汗をかいた状態を実践的に再現すると、汗の量が多いほど光拡散率が高くなることが確かめられました(図 2)。これにより、汗によって毛穴補正効果が向上し、つるんと滑らかな仕上がりをキープできると考えられます。

汗が多いと光拡散力が高まった

→ 汗をかくにつれて毛穴補正効果が向上すると期待できる

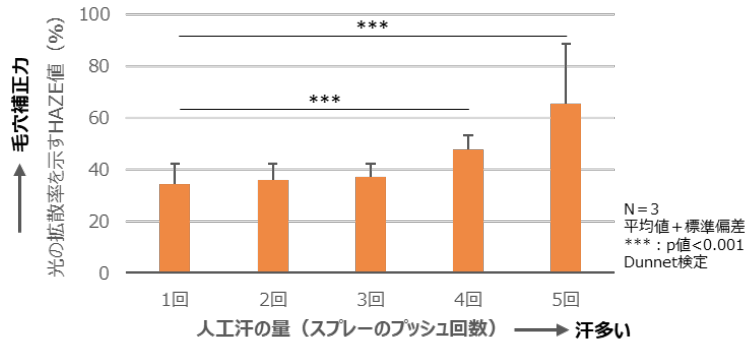
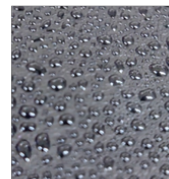


図2. 新技術を活用したメイク膜における汗量と光拡散力の関係

スライドガラスに試料を一定の厚さに塗布し、50℃で15分乾燥させ、メイク膜を作った。メイク膜にスプレーで人工汗液をかけてから、室温で乾燥させHAZEメーターで光拡散効果を測定した。光拡散力が高いほど、毛穴補正効果が高いことを示す。

(参考)

スプレー 1 プッシュの汗量のイメージ



分かりやすいように黒皮革の上にスプレーした



実験に使うスプレーヤー

【補足資料 2】 新技術を採用したメイク膜の化粧もち

メイク下地は、メイク膜の土台を形成することから、皮膚から分泌される汗を素早く吸収し、メイクへの影響を最小限に抑えるのに適していると考えられます。そこで本技術を活用したメイク下地で効果を検証しました。

その結果、従来技術を活用した比較対象に比べて、メイクしてから時間が経過しても毛穴などの凹凸やくすみがほとんど目立たず、つるんと滑らかな仕上がりが続くことが確認できました(図 3)。さらに、新技術を活用した下地の毛穴補正効果に関する満足度調査では、84%の専門評価者が満足と判定しました(図 4)。

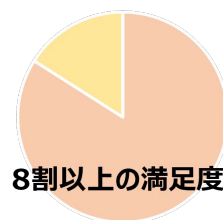
新技術はつるんと滑らかな仕上がりが続く



図3. 本技術を活用したメイク下地の化粧持ちの例

スキンケアで肌を整えた後、顔の左右に、新技術を活用したメイク下地料または従来技術の下地料をそれぞれ塗布。さらに一般的なクリームファンデーションを塗って普段通りにすこし、6時間後、メイクの状態を観察した。

Q. 毛穴、凹凸のない
 つるとなめらかな肌になっているか



■ はい ■ どちらでもない ■ いいえ

専門評価者24名による満足度調査

図4. 新技術を活用した下地の満足度